



Faculty of
Science and
Technology
Tokushima University

沿岸域の環境保全・修復と津波防災に関する研究

【キーワード:閉鎖性海域, 南海トラフ地震津波, 環境学習, 防災学習】 教授 上月 康則



「此処より下に家を建てるな」という石碑の言葉を守った者は助かった(東日本大震災)



日本一水質悪化の進んだ
尼崎運河の水質浄化水路

内容:

自然と共生する社会というものを「地球上での物質のジュンカン(循環)を乱さない社会」と言うことができる。自然界での物質ジュンカンが活発なところの一つには、藻場干潟といった浅場があるが、その一方で津波高潮といった災害も多く、また人の社会経済活動も活発である。それゆえ、非常に高度に環境と経済、防災とのバランスが自然共生型社会には求められている。

本研究室では、恵みだけでなく、災いといった自然とも共生社会の形成のあり方を考え、その実現に向けた技術開発や市民・行政との協働活動を行っている。劣化の著しい都市型海辺での研究例としては、大阪湾湾奥にある尼崎港や運河、青潮の発生する天然浜の御前浜、また埋立地の中に創られた海水池と干潟と、いずれもユニークな環境での研究と協働活動を行っている。また良好な環境では、海浜性の絶滅危惧生物リュウノヒゲを対象としたミチゲーションと言う世界でもここにしかない事例研究と協働活動を行っている。

一方、「事前復興まちづくり計画」を実行すれば、南海トラフ地震津波といった巨大地震津波とも調和できることを唱え、徳島県美波町や徳島市津田地区で実装研究を行っている。

分野:環境政策・防災

専門:環境工学・津波防災

E-mail: kozuki@tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-656-7335

Fax: 088-656-7335



尼海の栄養JYUNKAN